

首塚古墳

この古墳の起源については 3 つの説がありますが、「おらしょ」はキリシタンのウェブサイトなので、ここではキリスト教に関する 1 説のみを取り上げます。

1637年、続く不作で飢饉に見舞われ、残忍で強欲な大名松倉勝家（1598-1638）に耐えきれなくなった島原の農民たちは反乱を起こしました。1638年1月、松倉氏の前の大名に仕えていた武士たちの巧みな指揮に助けられ、2万人以上の反乱軍が原城に立てこもり、オランダ船の支援を受けた約12万の幕府軍勢に抗戦しました。同年4月、原城がついに陥落すると、男も女も子どもも、城内にいた全員が虐殺されました。女と子どもは見つかった場所で殺されることが多かったのに対し、戦える年齢の男たちは集められて斬首され、その首は戦果の集計に使われました。高さ5メートル、幅10メートルの首塚古墳（heaped-up severed-head mound）には、処刑された男たちの首が埋葬されています。

島原の乱の規模に衝撃を受け、この一揆を純粹にキリシタンによる反乱と解釈した江戸幕府は、翌年ポルトガル船の国内入港を禁止し、鎖国政策を実行に移しました。